

【科目名】言語学		【担当教員】氏平 明
【授業区分】専門分野(言語聴覚障害学)	【授業コード】5-27-1070-1-1	(メールアドレス) URL http://ujihira.my.coocan.jp
【開講時期】3年次 前期	【選択必修】必修	(オフィスアワー) 来学時に対応
【単位数】2単位	【コマ数】15コマ	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>予習や独学は不可能なので、講義中に内容を理解し復習をしっかりとる。期末試験前に総復習をする。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) 言語学とはどのような研究領域であるのかを理解する。音声言語が持っている一般的な特徴を知るとともに、表象単位である音韻、語の成立ちである形態、文を構成する統語、そして意味について理解する。また、日本語が持っている特徴についても理解を深め、言語聴覚臨床において言語学の知識をどのように用いていくかを学習する。</p> <p>(方法) 教科書を使用して、講義を中心に行う。理解しやすいようにプリント資料を使い講義を進める。また</p> <p>毎回、前回の講義内容の確認テストを行う。</p>		
<p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <p>言語学の基礎を実践を通して身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBO)】</p> <p>知識を言語分析に応用し、自分で言語とその仕組みについて考える。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>講義全般をカバーする教科書や参考書はないので、40~50 ページのハンドアウトを配布する。ハンドアウトは主にキーワードの項目中心なので、授業を聞いて内容を自分で書き込んでいく。</p>		
<p>【参考書】『入門言語学』ジーン・エイチソン、KINSEIDO 『日本語の音声』窪菌晴夫、岩波書店 『新日本語の統語構造』三原健一・平岩健一、松柏社、『教養のための言語学コース』小泉保、大修館書店 『新しい日本語学入門』庵功雄、スリーエーネットワーク、『図解日本の文字』沖森卓也他、三省堂</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法) 集中講義なので最終試験成績のみで判断する 成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。</p>		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		90	0	0	0	0	0	10	100
評 価 指 標	取り込む力・知識	50	0	0	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造の力	20	0	0	0	0	0	0	30
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	30	0	0	0	0	0	0	25
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0
【授業日程と内容】									
回数	講義内容			授業の運営 方法		学修課題(予習・復習)		時 間 (分)	
1	ことばに対する言語学の考え方			講義		復習必須		30分	
2	言語学の研究その歴史			講義		復習必須		30分	
3	音韻論 音声の最小単位とそのまとめ			講義		復習必須		30分	
4	音韻論 プロソディ			講義		復習必須		30分	
5	音韻論 アクセントとイントネーション			講義		復習必須		30分	
6	形態論 形態素と形態音素交替			講義		復習必須		30分	
7	形態論 連濁の理論			講義		復習必須		30分	
8	形態論 語種と文字と表記			講義		復習必須		30分	
9	統語論 IC 分析とその限界			講義		復習必須		30分	
10	統語論 生成文法 ; GB の理論とその展開			講義		復習必須		30分	
11	意味論 概念的意味の分析			講義		復習必須		30分	
12	日本語文法形態論 品詞とその活用 (語と接辞)			講義		復習必須		30分	
13	日本語文法形態論 文法カテゴリー1 (格枠組みと項構造)			講義		復習必須		30分	
14	日本語文法統語論 文法カテゴリー2 (ボイス、動詞の分類)			講義		復習必須		30分	
15	日本語文法統語論 文法カテゴリー3 (アスペクト、モダリティ)			講義		復習必須		30分	

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。